

放射線による被ばく線量をご心配の患者様へ

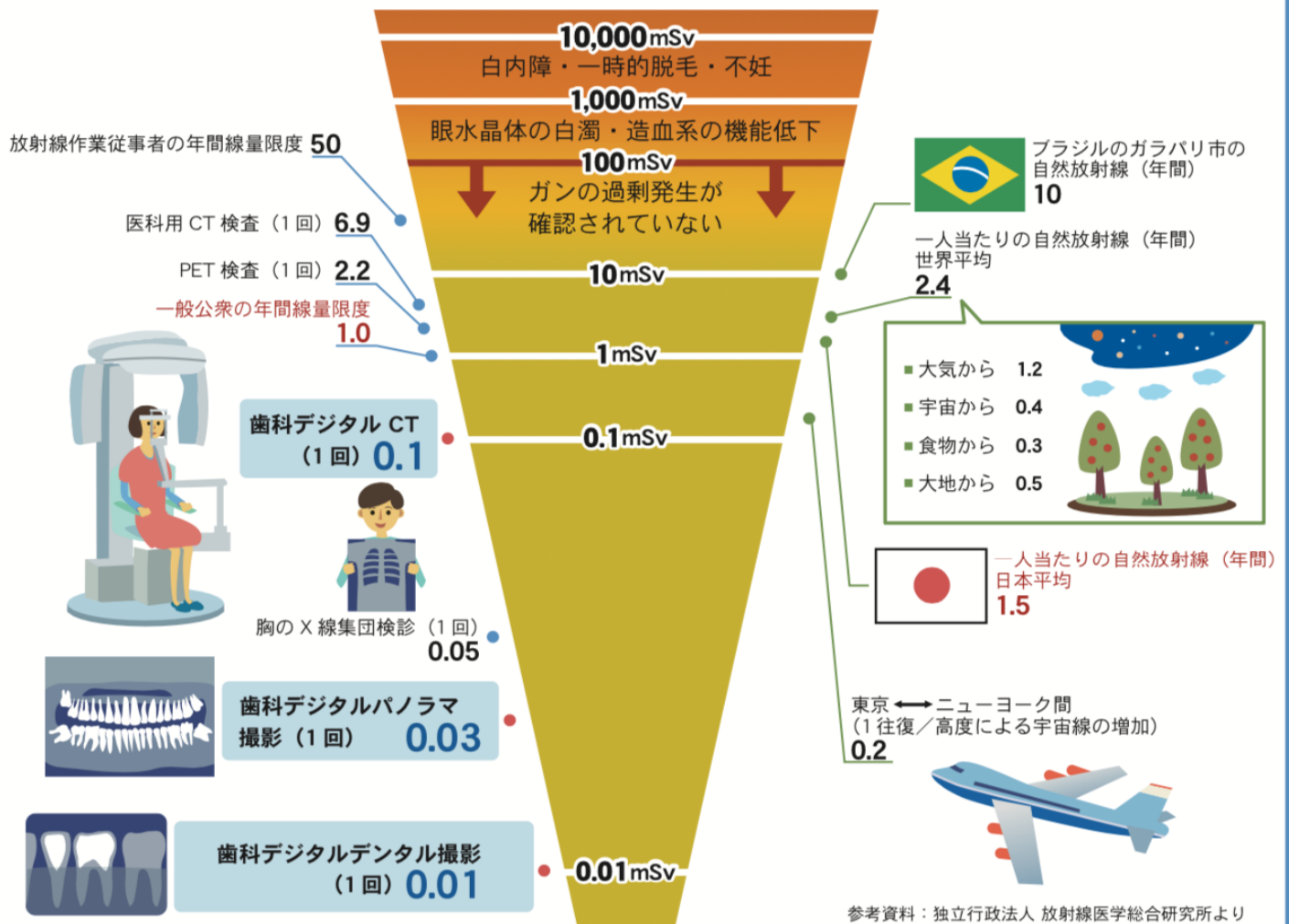
# 歯科のレントゲン撮影は安心・安全です

歯医者さんで撮影するレントゲン（X線）の放射線量は、機種や撮影場所によって多少異なりますが、胸のレントゲン写真や、自然界で1年間に受ける放射線に比べて、極めて少ない値です。ご心配の方もみえると思いますが、人体に影響を及ぼすレベルには程遠いのでご安心ください。

## 人工放射線

## 身のまわりの放射線量 (単位：mSv ミリシーベルト)

## 自然放射線



### なぜレントゲンを撮るの？

歯科の病気は、症状を聞いてお口の中をのぞくだけで全体像を把握できるケースはごくわずかです。ムシ歯の進行範囲や歯の根、骨の状態など、目には見えない病気の発見と的確な診断、治療を行うため、レントゲン写真を撮影しています。

### レントゲン撮影で放射性物質は出ないの？

歯科のレントゲン撮影に使われる「X（エックス）線」は人工的で作られた放射線ですが、放射能を出す「放射性物質」とは無関係です。撮影すると周囲の物質に吸収されて、跡形もなく消え去るため、レントゲン室に放射線が蓄積することはありません。

### シーベルトとベクレルの違いは？

シーベルト（Sv）は、放射線が人体に与える影響を表す単位です。人の被ばく線量は、このシーベルトを目安にしてください。ベクレル（Bq）は、物質が出す放射線量を表します。

1 ミリシーベルト（mSv） = 1 シーベルト（Sv）の 1000 分の 1

### 妊婦さん（胎児）への影響は？

日本産科婦人科学会によると、妊婦さん（胎児）に影響が出る被ばく量は約 50mSv と規定されており、歯科のレントゲンはその数百～数千分の 1 であるため問題ないと考えられています。それでも心配という方は、出産後の撮影をお勧めします。

レントゲンの被ばく線量について不安や疑問のある方は、スタッフまでお気軽にご相談ください。